

# 西宮市公共施設白書 (概要)



平成 23 年(2011 年) 8 月

西宮市

西宮市では、良好な住宅地と恵まれた教育環境を活かしたまちづくりを進めるため、公共サービスの需要の増大に伴い、学校施設や公民館、市民館など、各種の公共施設整備を積極的に行ってきました。

しかし、今日ではその多くが老朽化してきており、大規模な修繕や建替の時期を迎えつつあるため、公共施設を維持していくために必要なコストは、将来的に膨大な額になっていくことが予測されます。今後は、公共施設の品質の保持や需要と供給のバランスに努めながら、財政負担を軽減していくため、全

体最適化に向けたマネジメントが重要になってくると考えています。

そこで、まず、市全体の施設の状況を明らかにすることを目的に、平成 23 年(2011 年) 8 月に、「西宮市公共施設白書」を作成しました。

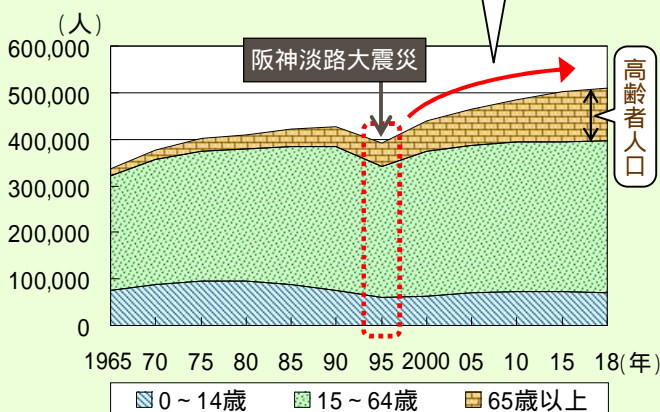
このリーフレットは、「西宮市公共施設白書」の概要をご紹介します。今後の公共施設のあり方について市民の皆様にご意見を伺い、ご意見を参考にさせていただきます。ご意見がございましたら、ぜひお寄せください。お問い合わせ先は、西宮市公共施設白書事務局です。(詳しい内容は、「西宮市公共施設白書」本編をご覧ください)

## 1 市の人口と財政の現状

現在、西宮市には約 48 万人が住んでおり、今後もしばらくはゆるやかな人口増が予測されます。一方、市の財政は、長引く景気低迷、経済不況の影響もあって、税収が伸び悩む状況が続いています。

市全体人口の推移 (1965 年～2018 年)

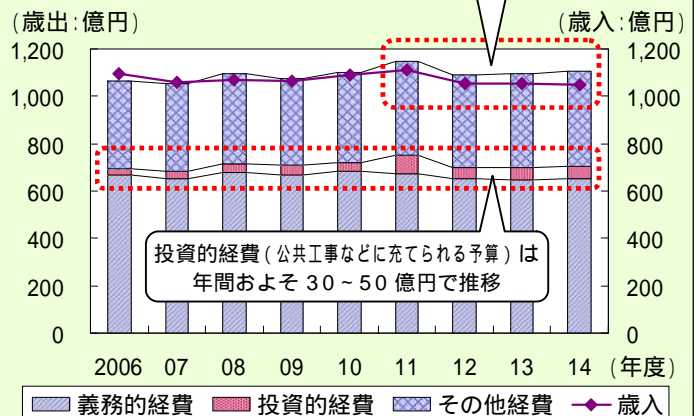
震災で一時期減少しましたが、復興(住宅開発等)に伴い、以後大きく増加しています。また、高齢社会の進行に伴い、2018 年には高齢者人口が 20% 超になると予測されます。



出典：1965～2005 年は国勢調査各年 10 月 1 日  
2010 年以降は第四次西宮市総合計画による人口推計値

一般財源(歳入、歳出)の推移 (2006 年度～2014 年度)

2011 年度以降は、公共サービスの需要がさらに増えると見込まれることから、歳出(棒グラフ)が歳入(折線グラフ)を上回る状況が続くものと予測されます。



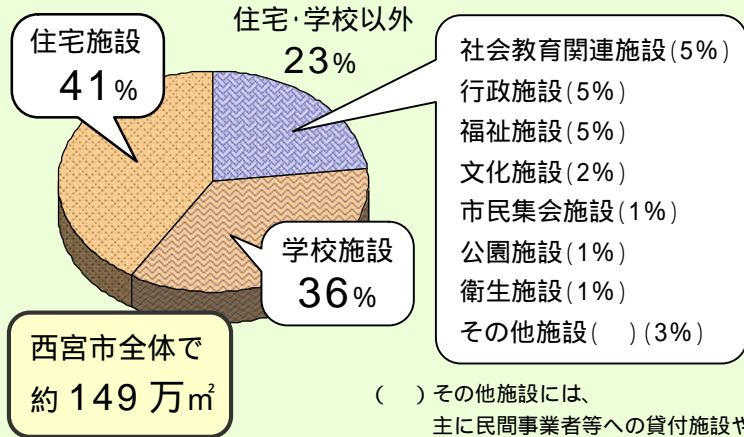
出典：西宮市総務局財務部財政課資料  
2010～11 年は予算額  
2009 年までは決算額  
2012 年以降は試算額

## 2 市の公共施設の現状

現在、市には公共施設が 149 万㎡、518 施設あり、そのうち住宅施設と学校施設で 77%の面積を占めています。また、整備後 30 年以上が経過した建物が公共施設全体の 41%を占め、建物・設備の老朽化が進んでいます。

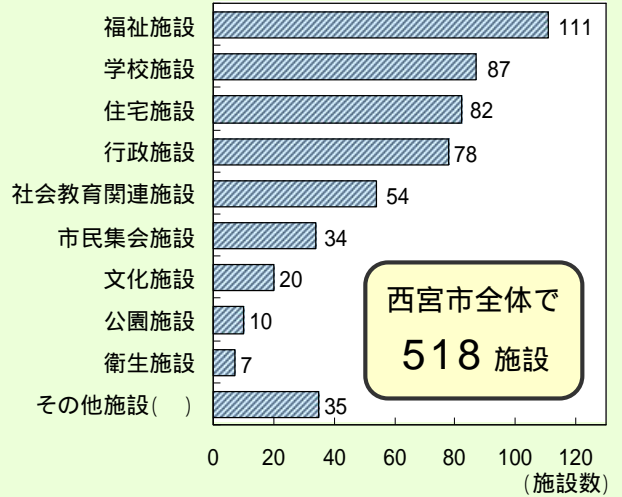
施設区分別の公共施設の延床面積の割合

(2010 年 3 月 31 日現在)

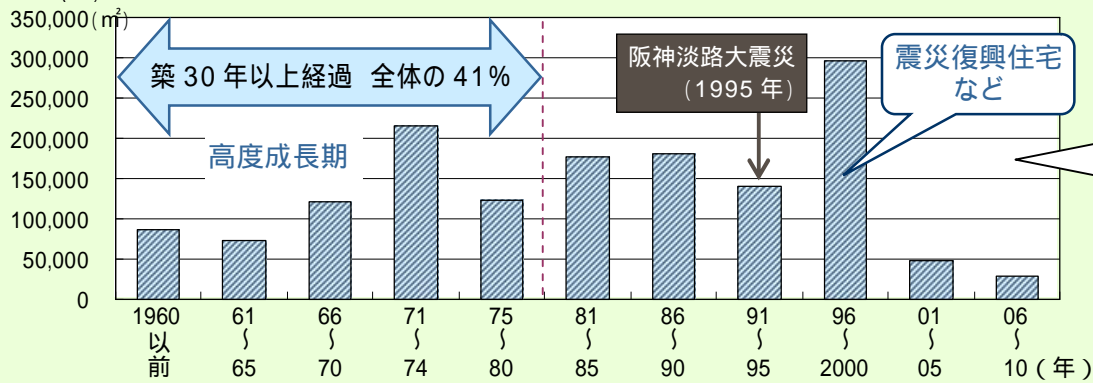


( ) その他施設には、主に民間事業者等への貸付施設や、市営公共駐車場などが含まれます。

施設区分別の公共施設数 (2010 年 3 月 31 日現在)



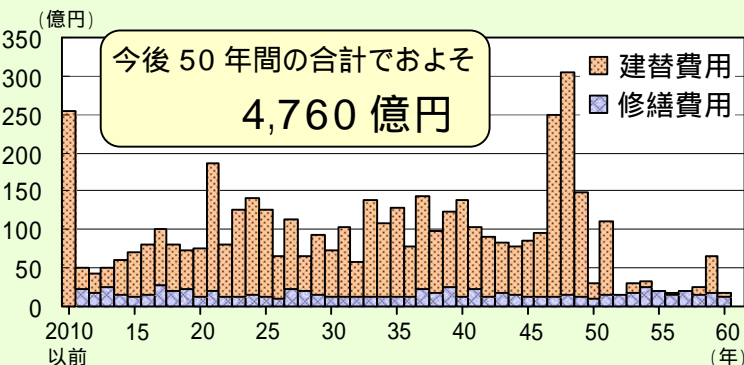
建築年別の延床面積



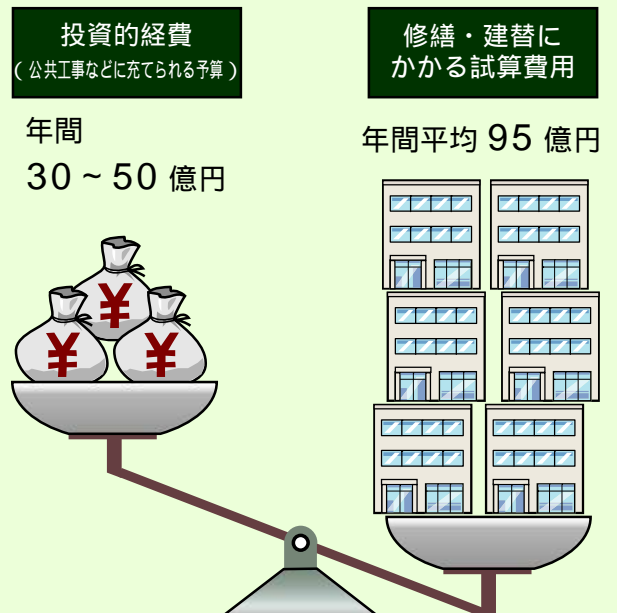
高度成長期や、震災復興に伴って整備された施設が多いといった特徴があります。

## 3 公共施設の維持保全の課題

今後 50 年間に必要となる修繕・建替費用の試算



年間の予算と費用の比較



公共施設の機能・サービスの質を維持していくには、計画的に修繕を行っていくことが不可欠です。しかし、**今ある施設全てを修繕、建替えていく**となると、将来的にかかる費用は、厳しい財政状況の中で、**市の予算ではとても賄えない規模**となります。早期に修繕・建替費用の縮減策に取り組む必要があります。

## 4 対応策のシミュレーション

修繕・建替費用の縮減策としては、現状の建物を出来るだけ長く使い続ける工夫を行ったり（長寿命化）施設や機能の無駄を少なくして全体の面積を減らしたり、建替の費用を抑えたりする方法が考えられます。そこで、これらの方法を組み合わせることで、将来的にどの程度の効果が得られるか、簡単な試算を行いました。

試算のパターン（A～F全てのパターンにおいて、計画的に修繕を行っていくことが前提になっています）

パターン A	今ある施設全てについて、築後 50 年で建替を行った場合（基準パターン）
パターン B	今ある施設全てについて、築後 70 年で建替を行った場合（長寿命化）
パターン C	パターン B（長寿命化）に加えて、全体の面積を 10% 減少させた場合（総量縮減）
パターン D	パターン C と同様の考え方で、全体の面積を 20% 減少させた場合
パターン E	パターン D に加えて、建替にかかる工事費を 10% 減少させた場合
パターン F	パターン E と同様の考え方で、建替にかかる工事費を 20% 減少させた場合

注 1) 長寿命化とは、通常、一定の期間使用すると建替える建物を、より一層適切に保全し、使用できる期間をさらに延ばすことをいいます。  
注 2) 一定のパターンに基づく試算であるため、実際に発生する費用とは異なる場合があります。

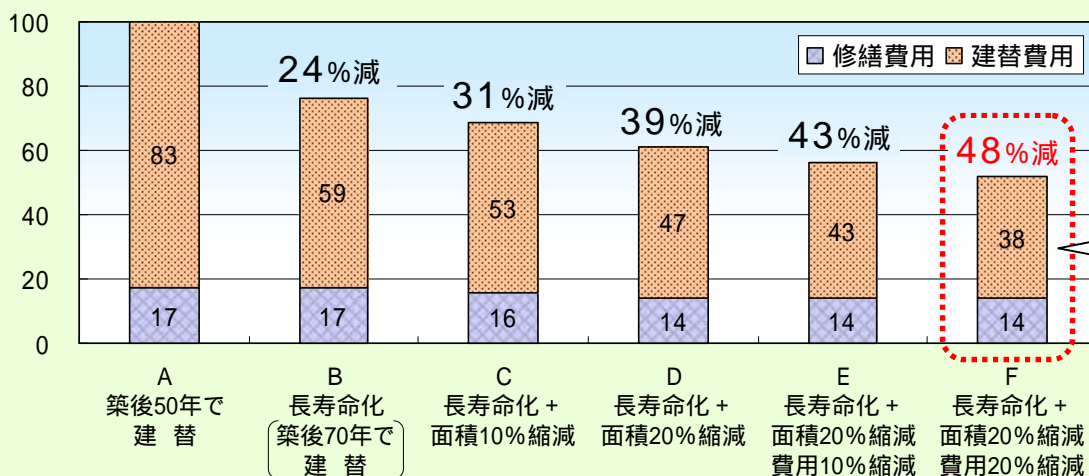
### 年間の修繕・建替費用の試算額の比較

《パターン A》今ある施設全て（約 149 万㎡）を築後 50 年で建替  
今後 50 年間の合計で約 4,760 億円、1 年間の平均に直すと約 95 億円

パターン	A	B	C	D	E	F
	築後 50 年で 建替	長寿命化 築後 70 年で 建替	長寿命化 + 面積 10% 縮減	長寿命化 + 面積 20% 縮減	長寿命化 + 面積 20% 縮減 費用 10% 縮減	長寿命化 + 面積 20% 縮減 費用 20% 縮減
合計	95 億円	72 億円	65 億円	58 億円	54 億円	49 億円

年間にかかる  
修繕・建替の  
平均費用を  
50 億円までに  
抑えられる  
計算になります。

### 修繕・建替費用の縮減効果（パターン A の修繕・建替費用の合計を 100 とした場合）



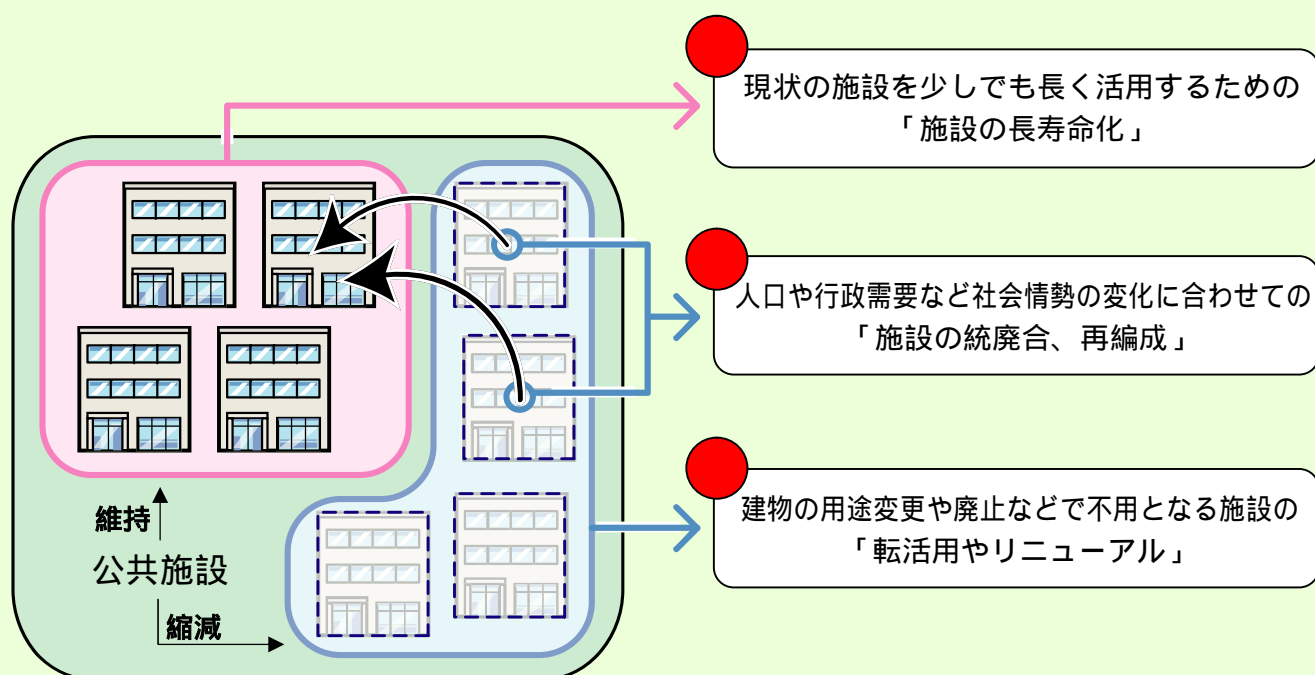
今ある全ての  
施設を修繕・  
建替えた場合  
に比べて、  
ほぼ半減する  
計算になります。

この結果はあくまで試算値ですが、現在の財政状況が続くことを考えると、これを参考に今まで以上にコスト縮減に努めていくことが重要であると考えます。

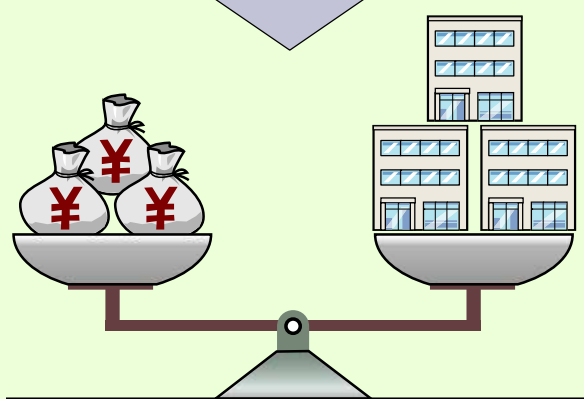


## 5 公共施設の今後のあり方について

試算の結果をふまえ、今後、公共施設のあり方を考えるにあたっては、次の～を重要項目とした上で、具体的な対応策としての「公共施設マネジメント」を検討していく必要があると考えています。



品質・供給・コストの全体最適化



上記～のような方法と合わせて、さらに効率的な維持管理等を実施することによって、施設にかかる費用全体の削減と、費用負担の平準化を図っていきたいと考えています。

今後、西宮市では、このような考え方に基づいた「公共施設マネジメント」の実現に向けて、具体的な方向性、基本方針、基本計画等を検討していきます。

「西宮市公共施設白書」は、本庁舎4階施設企画グループで配布している他、市のホームページでご覧になれます。

(<http://www.nishi.or.jp/contents/00016681000200078.html>)

お問い合わせは



西宮市役所 総合企画局 企画総括室 施設企画グループ

〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号

TEL (0798) 35-3040 (直通)

FAX (0798) 23-3084

e-mail:shisetsukikaku@nishi.or.jp